

開催報告

羽田空港新滑走路見学会の開催報告

学生・教育委員会 委員長 鎌尾 彰司

平成 20 年 9 月 19 日(金)羽田空港新滑走路・国際線エプロン建設工事の見学会を企画しました。定員を超える応募があり抽選の結果 20 名に参加していただきました。見学会当日は、あいにく雨模様でしたが、まずはバスにて国際線エプロン工事を見学しました。その後、新滑走路事務所に移動し工事概要等を聞き、質疑応答の後に監督船にて新滑走路の視察しました。

本委員会では毎年 2 つのイベントを企画しています。一つは初級技術者向けの「入門セミナー(本年は 12/3 神戸にて開催予定)」で、もう一つが今回の「見学会」であります。今後ともご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

また、今回の参加者の中に異分野(地球科学)の研究者の方がいらっしゃいましたので、感想を書いていただきました。

「現場見学会に参加して」

(東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻研究生)
(建築研究所国際地震工学センター 専門研究員)

水谷 宏光

私は、地球科学が専門で、土木や建築の専門教育を受けていませんが、現場を感じることでできる貴重な機会であると考え、見学会に参加させていただきました。当日は、雨模様だったものの、幸いにして台風の影響は小さく、船で栈橋部や埋立部周辺の見学を行うことができました。現場を間近で眺めることで、事業が巨大なこと、完成に向けてかなりの急ピッチで進められていることを実感することができました。

プレハブの会議室で行われた説明は大変わかりやすいものでした。特に、栈橋・埋立複合型のD滑走路は、東京港航路と、多摩川河口の阻害率との兼ね合いで設計されていることが印象的でした。また、様々な技術の中で特に興味を引かれたのは、埋立部の側方流出による変動を抑えるための地盤改良技術(海底の床掘土砂を密度の高いものに入れ替え、埋立側の地盤を軽いもので置き換える技術)でした。地球科学で学ぶ大規模地形を形成するアイソスタシーの概念につながっています。

この見学会を通して、地球科学と実学のつながりを強く感じることができました。



監督船にて視察へ



20名の参加をいただきました